

巨大トウガンが窓口に登場★



阿志岐出張所に、巨大なトウガンが飾られ話題を呼んでいます。それぞれ重さが約8kg(写真左)、約6.5kg(写真右)。周囲が100cm以上もあり、運ぶのも一苦労な大きさ。このトウガンは、管内の組合員2名が収穫したもの。品種は不明ですが、毎年収穫しています。出張所の窓口に展示され、来店者の目を楽しませています。出張所の職員は「大きい上に、食べられると聞いてビックリ。皆さんに見て頂きたい。」と話していました。

農業基盤整備部会を設立



JA筑紫は8月26日、「JA筑紫農業基盤整備部会」を新しく設立し、物流センターで総会を開きました。

この部会は、営農活動の強化と経営の安定向上を目的に国庫補助事業の農業基盤整備促進事業に取り組むために組織されたものです。部会員は、JA管内の農業者25人と1法人で構成し、事務局はJA農産課が担います。

平成28年度は、総事業計画面積約47haのうち約2haの暗渠排水の新設事業に取り組みます。暗渠設備導入により農地の水はけを改善し、圃場の高付加価値化を図り、農家所得の維持向上や高品質な農産物の安定供給を目指します。鬼木正巳部会長は「部会の設立は、関係機関の支援があって出来ました。事業を立派に行ってまいります。」と挨拶しました。

無人ヘリの水稲防除、最盛期



稲刈りシーズンを前に、JA筑紫無人ヘリ防除作業部会が行う水稲の防除作業は、最盛期を迎えています。平成28年度水稲防除作業の依頼者数は約340件、面積は約262haを予定しています。出穂状況や病害虫の発生状況、天候などに十分注意しながら丁寧な作業を進めています。部会は、無人ヘリ2機による米・麦・大豆の病害虫防除活動に取り組めます。オペレーター・ナビゲーター・補助員の3人1組で役割を分担し、農薬を散布するヘリの高さに十分注意を払っています。JA農産課の担当職員は「今後も安全第一で、丁寧な作業を進めて欲しい。」と話していました。

出荷82tに向けて育苗状態を確認



JA筑紫ブロッコリー部会は、8月24日、苗作りの足並みを揃えようと、部会員の圃場を巡回し、育苗状態を確認しました。巡回には、部会員と福岡普及指導センター、JA農業振興課職員が参加し、互いの栽培方法など熱心に情報交換を行いました。

部会では、7月から播種を始め、8月から定植。出荷期間は秋冬作型で11～3月頃まで続きます。圃場や生育状況を随時連絡し、出荷確認を図るなど、入念な栽培工程を踏むことにより、部会で統一した良質なブロッコリー出荷を可能にしています。部会の平成28年度目標出荷量は約82t。目標達成と高品質な出荷に向け、部会員は一丸となり栽培に取り組めます。JA営農生活部の担当職員は「これから定植が終わるまで気を抜かず管理していきたいです。」と話していました。

JA筑紫女性部が学習会

JA筑紫女性部は24日、「女性部組合員学習会」を本店で開きました。2012年度から女性部の正・准組合員を対象として開催。女性部全体の教育文化活動を通して、組織活性化に繋げる目的です。女性部員とJA職員ら160人が参加しました。学習会では、「惣菜畑がんこ」代表の柚木マズミさんが『『どうにかなるくさ！』～前を向けば何だってできる～』を演題に講演を行いました。参加者は柚木さんに共感した様子で、うなずきながら講演を聞いていました。

こども向けフェスタ大盛況



JA筑紫は8月20日、組合員や地域とのつながりを強化する「ふれあい活動」の一環として、JA本店で「第10回ちゃぐりんフェスタ2016」を行い、終日大盛況でした。このフェスタは、夏休み恒例の子ども向けのイベントとして好評。地域での認知度も年々高まり、今年で10回目を迎えました。当日は快晴で、昨年を上回る約1900人の親子連れが来場しました。

みそ作り体験、親子で食育学ぶ



JA筑紫は8月20日、管内の親子を対象に「みそ作り体験教室」を開催。同日行われた「ちゃぐりんフェスタ」の催しの一環で、親子の食育活動を通じて食と農への理解を深めてもらおうと行いました。筑紫野市山口地区の女性部員である農事組合法人・山口農産のメンバーが、講師としてみそ作りの手順を説明。親子14組36人が、みそ作りに挑戦しました。子供達は、蒸した大豆を小さな手で一生懸命に潰しながら「粘土みたい。みそ作りって楽しい」と笑顔で作業を進めました。

適正な管理運営を目指す



JA筑紫は8月16日、物流センターで「平成28年度カントリーエレベーター運営委員会」を開催。農事組合長代表や生産部会代表、JA役職員など21人が参加しました。委員会は、大規模乾燥調製貯蔵施設の適正な管理や運営を目指し、対象作目の利用・運営計画などを協議します。

今回は、米麦の情勢や現在の水稻生育状況について報告後、平成28年産水稻処理計画など6項目を協議しました。今年の水稲処理計画は、荷受生重量で夢つくし538ト、元気つくし833ト、ヒノヒカリ852トの合計2223トを計画。カントリーエレベーターの稼働を目前に、搬入方法や品質事故防止などの注意事項を話し合い、品質管理の徹底を目指していきます。

安全が一番！



JA筑紫機械利用組合連絡協議会は、秋の農繁期に備えて「農作業安全研修会」を物流センターで開きました。研修会には、協議会メンバーと行政、JA職員が参加しました。

福岡県内では毎年、農作業時における死亡事故が数件発生。その多くが、トラクターやコンバインなど農業機械を使用中の事故です。JA管内でも、農作業中に不慮の事故が発生しているため、積極的に注意を促しています。当日は、農機メーカーのヤンマーアグリジャパン株式会社を講師に迎え、農作業事故防止に向けた講義と実演を行いました。参加者は、農作業死亡事故の現状や、コンバインの安全な操作方法などを学びました。

夏のイベント大好評！！



ゆめ畑大野城店は8月6日～8日までの3日間、出荷者や利用者の皆様に日頃の感謝を込めた「ゆめ畑夏祭り」を開催。ラムネ・かき氷の販売や、メダカすくいなどの夏らしい企画で、イベントは大盛況でした。6日は快晴に恵まれ、地元野菜や米の特価販売の他に、御中元にぴったり夏限定ギフトの販売などを実施。その他、大野城で作られた焼酎や梅酒の試飲会も行い、たくさんの来店者がイベントを楽しんでいました。

ゆめ畑大野城店の緒方一寿店長は「来店者に夏祭りを楽しんでもらえて良かった。これからも、地域に愛される店舗作りをしていきたい。」と話していました。

農業のリーダー、売れる仕組みづくりを学ぶ

筑紫地区農業振興協議会は、JA本店で2016年度筑紫地区リーダー研修会を開催。研修会には155人が参加し、農産物の6次化で地域活性化に成功した事例を学びました。

研修会は、福岡普及指導センターと各行政、JA筑紫で構成する筑紫地区農業振興協議会が主催。JA管内の認定農業者や農事組合長など、地域農業を担うリーダーを対象とし、農業に深く関係する題材をテーマに年に一度開かれます。

今回は、高知県にある馬路村農業協同組合の東谷組合長を講師に招き「ゆずの市場開拓から始まった地域づくり」を講演。ゆずの生産・加工・販売の経緯や地域との関わり方などを話しました。参加者は、配られた馬路村のリーフレットを片手に、売れる仕組みづくりについて真剣に耳を傾けていました。

夏野菜を美味しく調理



JA筑紫女性部は、平成28年度夏料理講習を各地区で行いました。暑い夏を健康的な食事で乗り切ろうと毎年企画されています。那珂川支店で行われた講習会には、那珂川ゆめカレッジのメンバー24人が参加。JA生活福祉課職員が調理手順を説明後、料理を始めました。

今回のメニューは、「野菜たっぷりチーズパエリア」や「コマツナの皮なしシューマイ」「ナスのしば漬け風」など4品。夏野菜をたくさん使った夏にぴったりのメニューです。部員達は、メニューを分担し手際よく調理を進めていました。出来上がった料理を試食した部員からは「野菜がたくさん入って健康に良さそう。家でも挑戦してみます。」と、好評でした。

女性部が直売所で夏祭り



JA筑紫女性部は8月2日、ゆめ畑筑紫野店で「女性部夏祭り」を行いました。女性部活動のPRを目的に昨年からはまった新しい取り組みで、今回が2回目。当日はゆめ畑筑紫野店の屋外にシャボン玉や水鉄砲、輪投げ、安徳支店の「お手玉ゆりの会」によるお手玉など、さまざまなコーナーを設けました。来店した親子が足を止め、子供達が元気に遊ぶ姿が見られました。JA生活福祉課の戸渡奈穂美課長は「子ども達の賑やかな声が響いていました。今後も継続していきたいです。」と話していました。

糖度高い巨峰、順調に出荷



JA筑紫ぶどう出荷組合の平山弘人さんが営むぶどう農園「紫水園」は、大粒で甘い巨峰を順調に出荷。JA農産物直売所ゆめ畑で人気商品となっています。

筑紫野市山家にある「紫水園」は、「巨峰」と「種なし巨峰」の2種類の品種を栽培。今年は早い梅雨明けと十分な日照で、糖度の高い巨峰が育っています。「紫水園」は、3年前から消費者のニーズに応えるために、「種なし巨峰」の栽培を開始。種なしの需要が伸びていることから、今後は更に作付面積を増やす計画です。平山さんは「今年の巨峰は特に甘い。多くの人に味わってもらえると嬉しい。」と話していました。出荷は、10月20日頃までの予定。